

金融資本市場研究会（有馬ゼミ） 全国学生証券ゼミナール大会で優秀ゼミに選出される

有馬 敏則（経済学部教授）

平成18年12月15日（金）から16日（土）にかけて、東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで行われた平成18年度全国学生証券ゼミナール大会で、本学経済学部の金融資本市場研究会（有馬ゼミ）が、第7テーマ「わが国の投資教育のあるべき姿」部門で優秀ゼミナールに選出された。これは平成16年度に続いて2回目の快挙である。

賞状と優勝カップが授与されたが、賞状には「貴団体は平成十八年度『証券ゼミナール大会』において、優秀な論文を作成し、且つ積極的な姿勢で討論に参加し、議論の発展に貢献したことを称え、ここに賞します 全日本証券研究学生連盟委員長 高野玲至」と記されている。



全国学生証券ゼミナール大会は昭和57年から年1回12月に開催され、今回が第27回大会に当たる伝統のある討論大会である。表彰制度は平成15年度から導入され、今年が4年目である。

平成18年5月から指導教授とゼミ生が一丸となって大会参加論文作成に取り組んできた。その下準備として6月と11月、大阪で開催された関西学生証券ゼミナール春季大会と中部証券学生秋季大会に参加・討論して全国大会に備えた。なお関西大会では「日本におけるM&Aのあるべき姿」部門で優勝を獲得した。

平成18年度全国学生証券ゼミナール大会には7テーマに全国の大学から111のゼミナールと研究会、合計593名が参加して行われた。それぞれのテーマは「日本におけるM&Aのあるべき姿」「地方金融機関の



将来性」「わが国における証券化のあり方」「証券取引所の役割と市場運営のあり方」「企業の株式上場の意義と企業監査のあり方」「機関投資家の投資行動と個人の資産運用のあり方」「わが国の投資教育のあるべき姿」というものであった。

金融資本市場研究会（有馬ゼミ）は25年間、全国学生証券ゼミナール大会やインターゼミナール大会に積極的に参加しており、平成19年も健闘を誓っている。